

として首を突つ込んだところ、釘が首に引っかかって抜けなくなっているところを隠れて見ていて、打ち殺したのだとい
います。夜にはイワンパカルとクウランケが番屋を訪れ、翌
30日にはクーチンコロとタヨトイのふたりが熊の新鮮な肉を
手に、私が無事に到着したことを祝いに来てくれました。

3月1日

穏やかな日とで、雪解けがかなり進みました。この日は
石狩川上流の人々の家を見て回りました。ルイベという雪
に漬けて置いてあった生の鮭を切り、ルサという茅で編ん
だ盆のような器に盛り付け、マキリという小刀と、皮をむ



マキリ

アイヌ民族が使った、生活に欠かせない道具のひとつ。
木を彫ったり、料理にも使った。

いた1本の柳の枝、それにひとつまみの塩を添えて出してくれました。それは生の鮭を食べられ
ないのであれば、柳の枝をマキリで串に削って、鮭を刺して火であぶって食べてください、とい
うアイヌの人の心遣いです。また、このほかに、コサというつる植物で唐花草の根を煮たものや、
つる植物のイケマの根を焼いて出してくれたところもありました。夜はアサガラで一泊し、翌日の
夕方、チクベツの大番屋に戻りました。

3月3日

先日仕込みを頼んでおいた濁り酒をこし、イナウをつくり、十勝方面の山越えに一緒に行く人
を決めました。クーチンコロ、タヨトイ、アイランケ、シリコツネ、ニホウンテ、ヤーラクル、セ
ツカウシ、タカラコレ、サタ、エナヲエサン、サケコヤンケ、アイコヤン、イワンパカルの13人で、
このうち、シリコツネは以前から十勝越えの案内をして詳しいので案内人とし、その他の者には荷